

# 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 天王寺区  
学校名 大阪市立味原小学校  
学校長名 井上 克己

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・味原小学校では、第6学年 43名

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科の3教科において、大阪府・全国の正答率を上回る結果となった。国語科においては、6%、4.2%、算数科では、ともに7%、理科では、7%、4.9%上回っていた。合わせて、3教科とも無解答率も大阪府、全国を大きく下回り、学習に前向きに取り組む姿勢が伺える。

児童質問紙においては、基本的な生活習慣や自己肯定感、勤労奉仕の精神や家庭学習などで肯定的に回答するものが多かった。また、学習におけるICTの活用率や3教科の学習の習得度についても肯定的に回答しているものが多かった。一方で、将来に対するビジョンや友達関係への満足度が今後の課題である。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語] 国語科においては、日頃より読書や新聞など活字に進んで向かうことが多いことから、学習指導要領の内容の中でも、「C. 読むこと」の項目においては、8～10%程高い結果だった。しかし、自分の考えをまとめる難しさもあることから「A. 話すこと・聞くこと」においては大阪府・全国を下回る正答率だった。

[算数] 算数科においては、全体的に内容の定着が見られる。特に、「A. 数と計算」「C. 変化と関係」においては、9～10%大きく上回っており、日頃より計算の反復練習と間違い直しを徹底したり、数量や図形の関係を時間をかけて丁寧に考えたりしたことが結果につながったと考えられる。

[理科] 理科については、ここ数年専科を配置していることもあり、内容の定着が見られる。「地球を柱とする領域」では、8～10%程高い。本領域においては、計画的に、天体の動きを実生活の中で感じられるように進めてきたことが効果的だったと考えられる。

質問調査より

本校では、基本的な生活習慣の定着のため、食育だよりやほけんだよりを通して、保護者にも啓発をし、児童と共に、生活習慣の定着に取り組んできた。その結果、朝食を食べることや、就寝時間の定着に効果があった。また、すべての教職員が児童の情報を共有できるように掲示板を設置し、担任以外の教職員も積極的に児童を褒めたり、励ましたりするように取り組んできた結果、自己肯定感が高かったり、「教師がよいところを褒めてくれる」という項目のポイントが高かった。家庭学習においては、自主学習を推進したり、読書や探究学習などにも取り組んできた。その効果もあり、読書活動や新聞を活用する児童が増え、進んで読書をしたり、学習するようになったことから学力の向上にも繋がったと考えられる。一方で、自然観察や友達関係が今後の課題となった。

## 今後の取組(アクションプラン)

現在取り組んでいる、読書活動や自主学習、探究学習、更には保護者と協力して行う生活習慣の定着活動、担任だけでなく全教職員が児童の情報共有ができ、組織的に児童の成長を促す活動は継続していく。理科の学習においては、領域に偏らず実生活に即した学習を進めていくとともに、自然観察や自然を楽しむことにも注目して更なる学習を進めていきたい。友達関係については、現在行っているピアサポート活動のより一層の充実を図り、クラス・学年間だけでなく異学年との交流にも重点を置き、さまざまな友達関係があり、たくさんの友達がいることに気づかせたい。最後に、教育DXとしてICT機器の活用が進んでいる。本校児童においても、プレゼンや有効活用について肯定的に回答している児童が多かったが、情報モラルもあわせて進めていかなければならないと考えている。

---

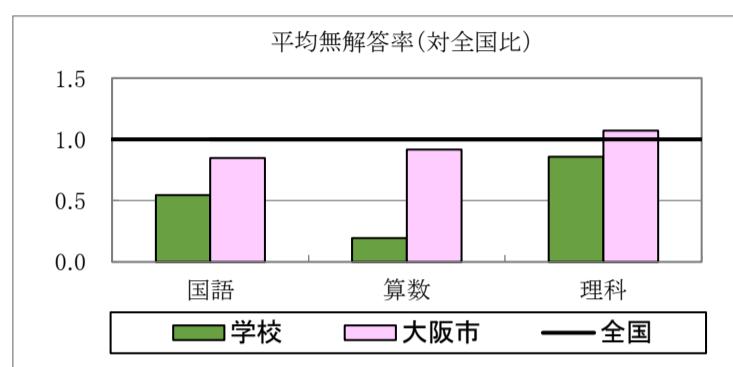
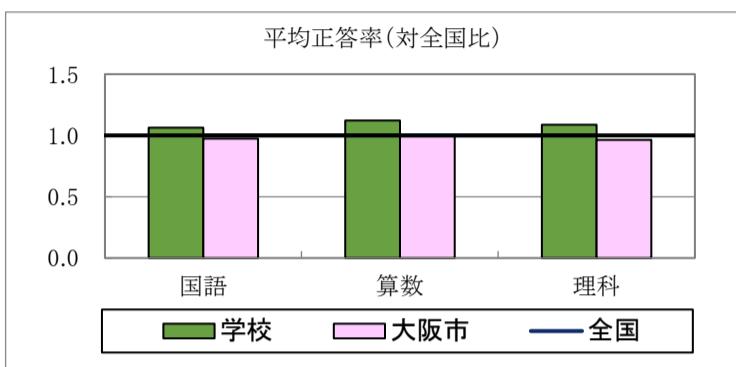
## 【 全体の概要 】

### 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	71	65	62
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

### 平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.8	0.7	2.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



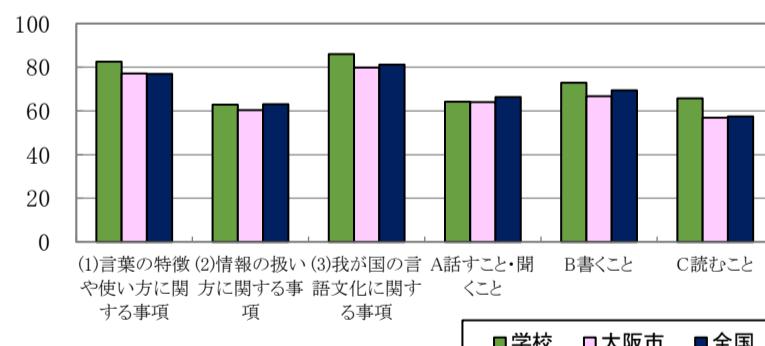
## 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	82.6	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	62.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	86.0	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	64.3	64.0	66.3
B 書くこと	3	72.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	65.7	56.9	57.5

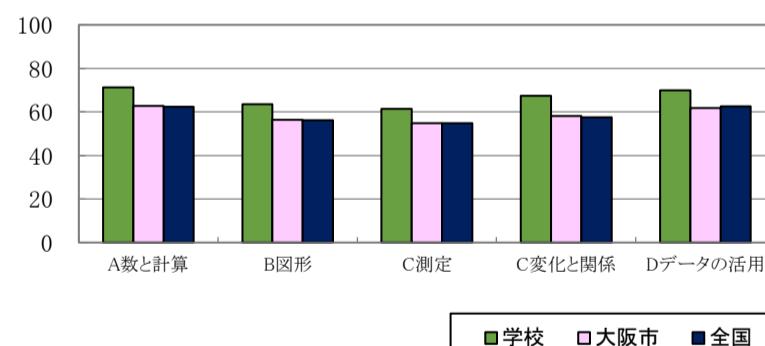
## 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	71.3	62.7	62.3
B 図形	4	63.6	56.4	56.2
C 測定	2	61.4	54.9	54.8
C 変化と関係	3	67.4	58.2	57.5
D データの活用	5	70.0	61.9	62.6

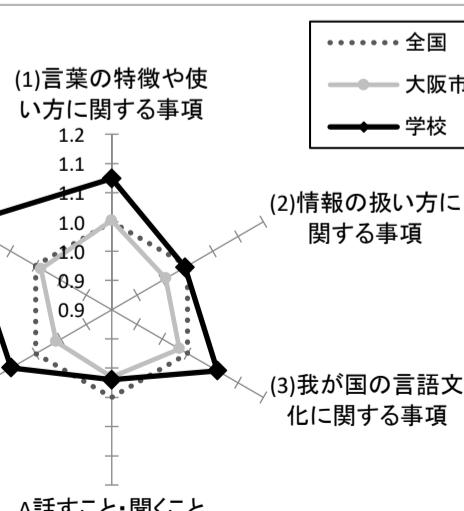
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



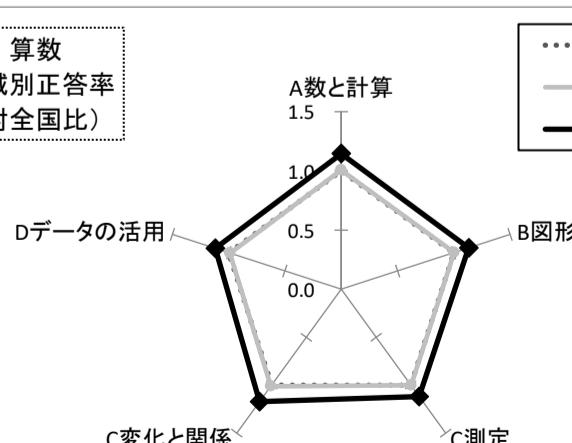
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語  
内容別正答率  
(対全国比)

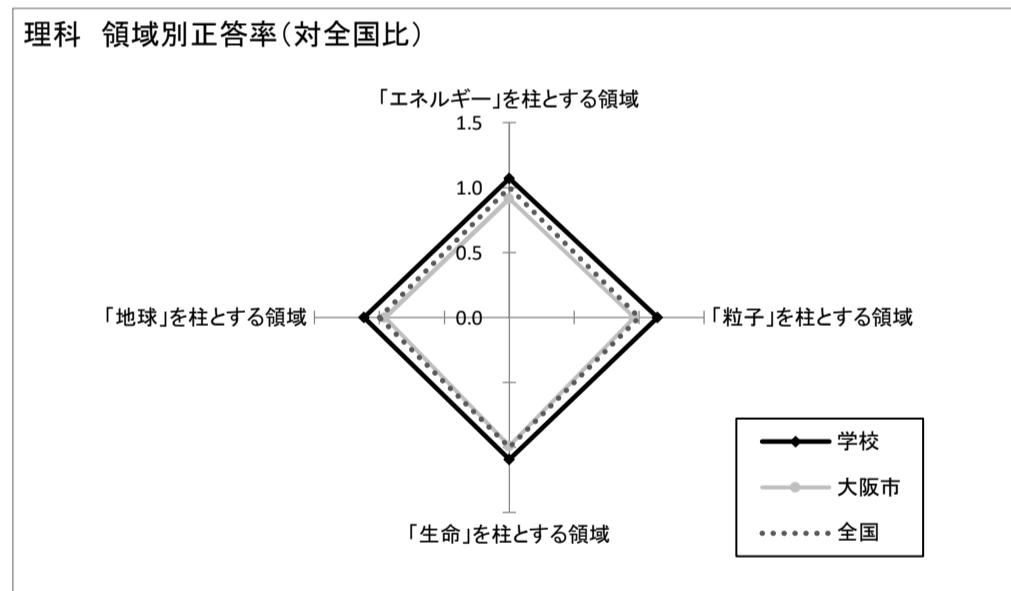
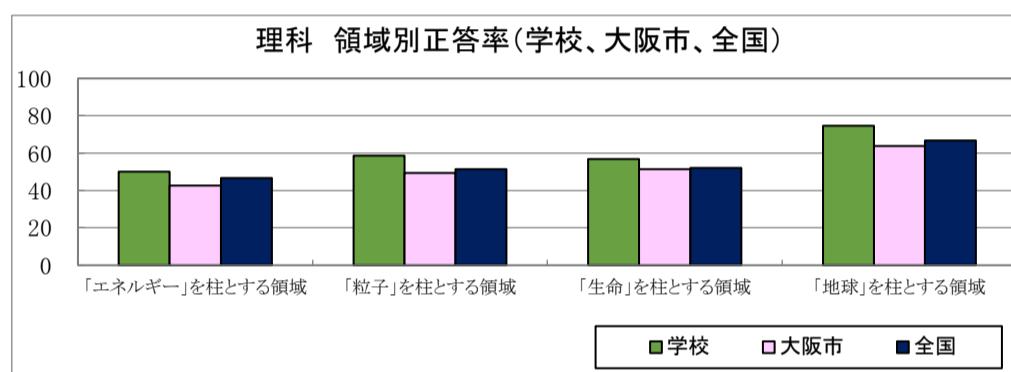


算数  
領域別正答率  
(対全国比)



## 【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	50.0	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	58.7	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	56.8	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	74.6	63.8	66.7



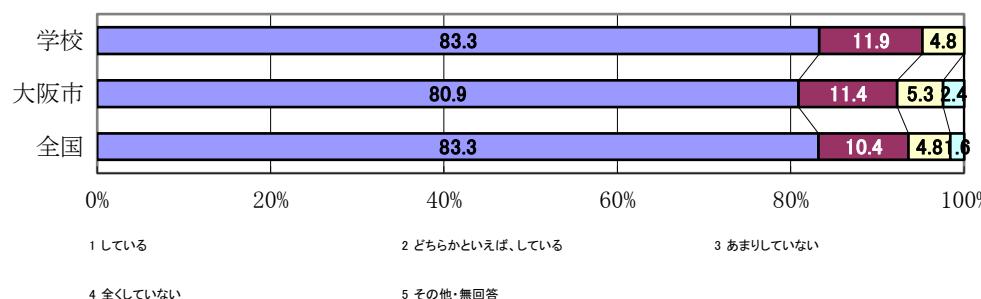
## 児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

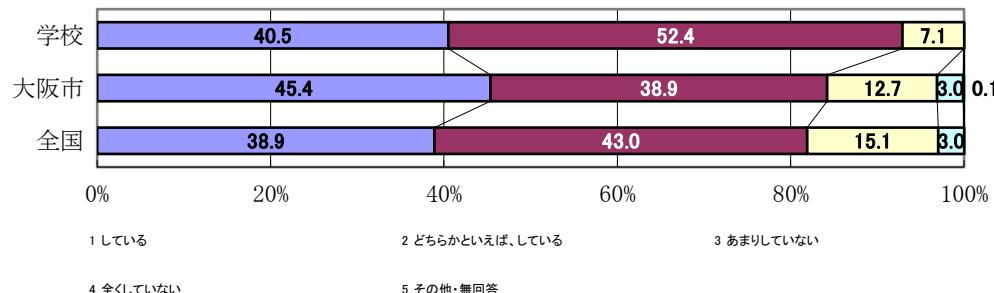
1

朝食を毎日食べていますか



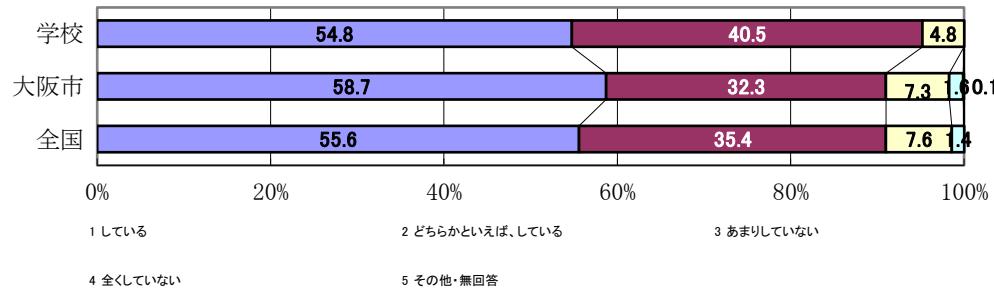
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



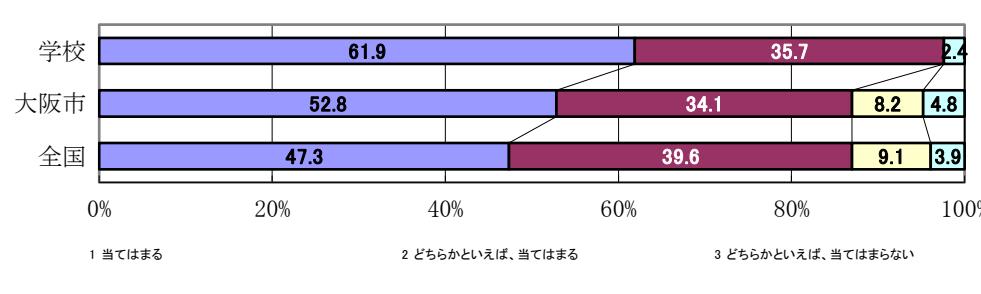
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



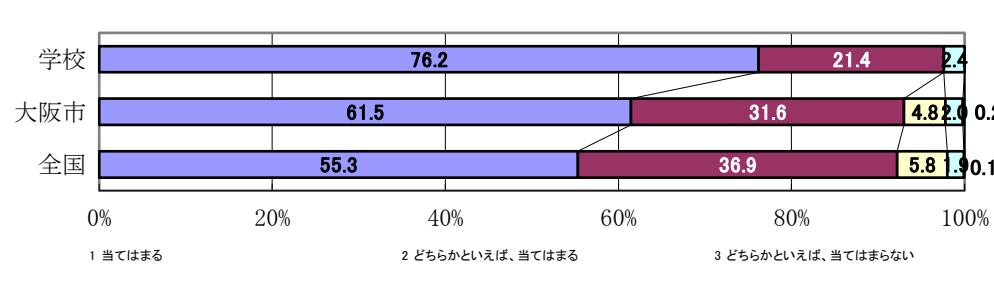
5

自分には、よいところがあると思いませんか



6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



## 学校質問より

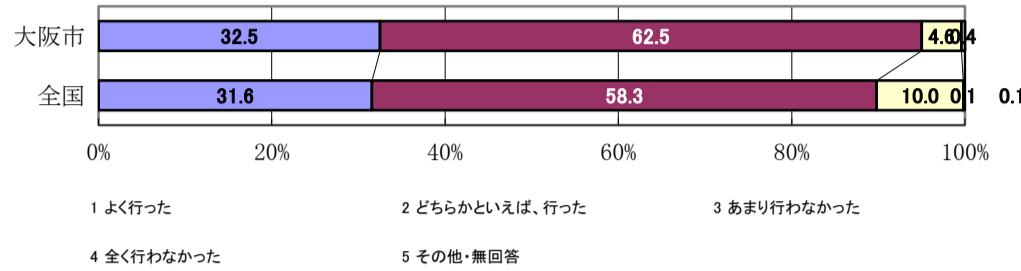
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号  
質問事項

32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

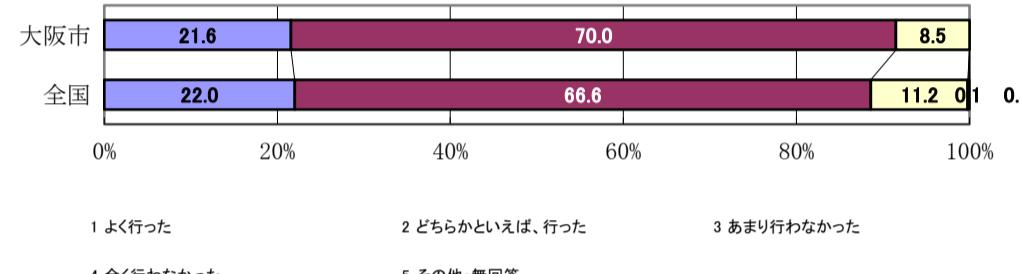
学校「」を選択



33

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

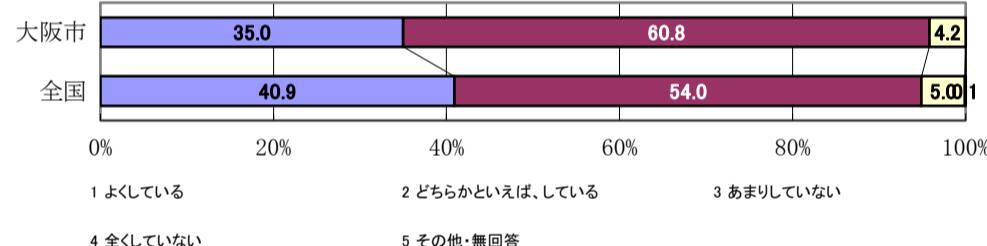
学校「」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

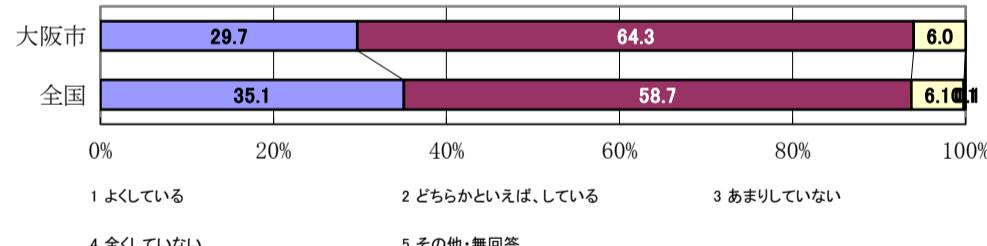
学校「」を選択



38

調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか

学校「」を選択



41

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか

学校「」を選択

